

そらべあ 学生レポーターがゆく!

vol.01 非日常の灯り

キャンドルナイトというイベントをご存じでしょうか? これは電気を消してキャンドルの灯りだけで過ごすことで、普段とは違ったゆっくりとした時間を過ごすというものです。このイベントを学生が主体となって行っているプロジェクトがあります。それが私の通う武蔵野大学で行われている「Candle Night」です。夏至と冬至に行われる「Candle Night」は会場内にテーマ(写真のテーマは花火)に沿って配置された数百個のアロマキャンドルをご覧頂くという展示型のイベント。学内・学外問わず、毎年多くの人たちが参加しています。

このイベントの特徴は“すべきことが決まっていない”ということです。キャンドルの明りを見ながら友人や家族との会話を楽しんでも構いませんし、音楽を聴きながら寛ぐのも自由です。会場内では飲食も可能で、入場時にはお菓子を配布しています。“しなければならぬこと”に追われることのない空間、それが「Candle Night」最大の魅力です。それでは飽きてしまう……と思われた

今回からスタートしたのは、環境活動に取り組む学生による情報発信コーナー! 若者ならではのアイデアと着眼点で書かれた取材記事やコラムを毎回紹介していきます。

方をご安心を。学生による演劇やピアノコンチェルトなどが催されています。

次回の開催は12月。具体的な日程などが決まりましたら私たちが運営している「Ecological Times Project」のHPに掲載しますのでぜひともアクセスして下さい。その他イベントの詳細もご覧いただけます。

URL: <http://ecotimproject321.web.fc2.com/>



レポーター: 武蔵野大学2年 三井翔太

✉ お便り募集

今回のそらべあ便りはいかがでしたか。よろしければご感想や、励ましのお手紙、写真などをお寄せください。いただきましたお便りは、ペンネームでご紹介させていただきます。氏名(ふりがな、ペンネーム)、住所、メールアドレスを明記の上、Eメール、または郵便でご応募ください(写真にはタイトルを明記してください)。

メール: info@solarbear.jp

郵便: 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-9-7 岡本ビル3F

そらべあ基金事務局「お便り」係



そらべあ基金 事務局の つよやま

そらべあサポーターズクラブのみなさま、こんにちは! そらべあ基金事務局の三澤です。さて、今回のそらべあ便りでは、前号に引き続き被災地支援を特集しました。第4弾~第6弾の支援では、被害の大きかった岩手・宮城・福島県の3県へソーラーパワートラックを派遣。今回の支援では多くの方々のご協力によって、エンターテインメント要素を豊富に盛り込み、さまざまなイベントを行ってきました! 特に印象深かったのが「がんばっぺ!いわき復興祭」です。実はこのイベント、当初は開催が危ぶまれていました。震災後、全国各地でイベントの自粛が相次いでいたためです。そんななか、「地元のお祭りを一緒に開催することで、いわきの再生・復興を祈願した一大イベントにしよう!」という声が数多く上がったことで、「がんばっぺ!いわき復興祭」は誕生したのです。お祭りは人々の「元気」を生み出します。今回、支援活動というかたちで、このようなイベントに協力できたことに、事務局一同、うれしい気持ちでいっぱいです。これからも、そらべあ基金では多くの方々笑顔にできるよう、支援活動を続けていきたいと思えます。

そらべあサポーターズクラブ

そらべあ基金の活動は、「そらべあサポーターズクラブ」会員のみなさまのご支援により支えられています。

- プレミアムサポーター: ソニー損害保険(株)
- オフィシャルサポーター: ソニー(株)、ソニーマーケティング(株)
- サポーター: (株)ホンダソルテック(株)毎日新聞社
- 応援団: 3社
- 個人・ファミリーサポーター: 92名
(2011年10月31日現在)

そらべあ便り vol. 11

2011年11月発行
編集: 加藤聡
デザイン: 小池隆夫

NPO 法人そらべあ基金
東京都千代田区神田淡路町1-9-7
岡本ビル3F
TEL: 03-3251-5454
FAX: 03-5256-7344
<http://www.solarbear.jp>

そらべあ便り

Sorabear Newsletter | Vol.11 ✉



©Shinzi Katoh

がんばっぺ
東北!

被災地
支援活動
報告第2弾

www.solarbear.jp

第12回そらべあスマイルプロジェクト 完成記念式典報告

今年春、ソニーマーケティング株式会社協賛のもと実施された「第12回そらべあスマイルプロジェクト」。先日、寄贈先となった山口県下関市の「梅光学院幼稚園」と熊本県水俣市の「わかたけ保育園」で完成記念式典が行われました。

山口県下関市

梅光学院幼稚園

宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘が行われた巖流島や源平最後の合戦の舞台となった壇ノ浦など、歴史の舞台を数多く抱えた街・下関。この地で創立された学校法人梅光学院が、幼児教育に力を注ぐために1953年に開設されたのが、今回訪れた梅光学院幼稚園です。系列校の梅光学院大学子ども学部子ども未来学科では、たくさんの若者が、未来を担う子どもたちを育てるために日々学んでいることから、記念式典では学生のみなさんに、実演を交えた電気の話をしていただきました。

自転車のペダルをこいでライトを点灯させる実験に子どもたちは大興奮で、「やってみたい人！」と聞くと、たくさんの手が一斉に挙がるほどの盛況ぶり。比較的年齢が近く、園児たちに共感する目線を持っている大学生と、そらべあの愛らしさによる



コラボレーションは、子どもたちに環境問題をより身近に感じさせることのできる組み合わせとして、非常に可能性を持っていることを改めて感じさせてくれた記念式典となりました。



熊本県水俣市

わかたけ保育園

恵まれた自然環境のなかで、心豊かな子どもたちを育てているわかたけ保育園では、さまざまな環境保護の取り組みを行っています。保育園前の菜園では、完全無農薬の野菜を子どもたち自身で育て、収穫し、食べることによって地産地消を実現。また、水俣市が独自で制定している保育園版の環境ISOも取得することで、ゴミの分別や物を大切にするといった行動を、楽しい活動や遊びのなかで楽しく実践しています。川遊びやカーン親子体験会、近くの自然学校での森探検や海岸遊びなど、自然のなかでの原体験を積む機会も豊富です。

そんな普段から環境問題に取り組んでいる、わかたけ保育園の子どもたちですが、そらべあの登場にはやや興奮気味！式典ではそらべあ来園のお礼として、「ばら組」と「きく組」のみなさんが歌



と踊りを披露してくれました。小さな手で一生懸命「手話」を交えて歌う様子を、スタッフ一同大きな感動をいただきました。水俣病という公害病を乗り越えた街だからこそ、これからの未来を生きる子どもたちに、自然環境について考えさせる、体験させる機会を豊富に与えているということを強く感じた保育園でした。

愛媛県の中学生・鷲野天音くんが 呼びかける地熱発電の重要性



「日本は世界で3番目の火山国で、地中のエネルギーは豊富にあります。地熱発電を増やすことで安心して暮らせる未来を作りたいと思っています」

そう話すのは愛媛県在住の中学生、鷲野天音（わしのあま）くん。鷲野くんは小学5年生だった2009年、愛媛県伊方町にある四国電力・伊方発電所で進められていたプルサーマル計画のことを知りました。プルサーマルとは、原子力発電の使用済み核燃料からプルトニウムを取り出し、ウランと混ぜて再び原子力発電の燃料（MOX燃料）として活用する仕組みのこと。毒性の強いプルトニウムを使用するだけでなく、通常のウラン燃料と比べて取り扱いが難しいなど、さまざまな危険性が指摘されています。

「これまで原子力発電やプルサーマル発電のことなんてまったく知らなかったけど、本やインターネットで調べていくうちに、すごく恐いものだと感じました」

プルサーマル発電を止めるために何かできないかと考えた鷲野くんは、288人分の子ども署名を集め、愛媛県議会に請願書を提出。結果は不採択

となりましたが、「日本には原発に代わるエネルギー資源がない」という議長の言葉が忘れられず、その後もエネルギーの勉強を続けます。調べていくと、地熱で蒸気を発生させて発電するという火山国である日本にピッタリな発電方法があることがわかりました。現在は多くの人に関心を持ってもらおうと、ステッカーやアニメーションを制作し、地熱発電の重要性を訴えています。

「自然の神秘さや不思議さに見る感性は、すべての子どもに生まれつき備わっている」

海洋生物学者で作家のレイチェル・カーソンの著書『センス・オブ・ワンダー』のなかの一節です。

1人の少年の純粋な想いから生まれた地熱発電普及の取り組み。大人たちはその声に、しっかりと耳を傾ける必要があるのではないのでしょうか。



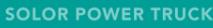
はじめよう! 地熱発電
<http://www.tentsuki.asia/amato>



東日本大震災復興支援活動 ソーラーパワートラックを被災地に！

3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援として、
そらべあ基金では「ソーラーパワートラックを被災地に！」プロジェクトを展開中。
前号に続き、支援活動の様態をレポートします。

第4弾 日程：2011年5月14日（土）～15日（日）
支援エリア：岩手県陸前高田市オートキャンプ場モビリア「ワクワク子ども祭り」




震災から約2ヵ月。ソーラーパワートラックによる4度目の被災地支援活動の場所となったのは、岩手県陸前高田市の「陸前高田オートキャンプ場モビリア」です。そらべあ基金は、ここで開催される炊き出しイベント「ワクワク子ども祭り」への電源供給に協力させていただきました。

スタッフ全員で黙祷をささげ、イベントはスタート。模擬店には、焼き鳥、焼きそば、お好み焼き、綿あめといった子どもの大好きなお祭りの定番メニューが並びます。ソーラーパワートラックから供給された電力は、ポップコーンメーカーや綿菓子機に使用されたほか、体験コーナーに設けられた未来の乗り物「セグウェイ」の動力にも使われました。

そしてこの日のメインイベントは、宮城県石巻市から応援に駆けつけてくれた仮面ライダーによるヒーローショー！ いつの時代もヒーローは、子どもたちに勇気と希望を与えてくれます。

わずか2ヵ月前、陸前高田は、カキの出荷量日本一を誇る水産の街であると同時に、リアス式海岸と高田松原が美しい風光明媚な観光の街でした。印象的だったのが、「カキの養殖棚はすべて流されてしまいました。出荷の再開にはまだまだ数年はかかるでしょう」という地元の人の言葉。おいしいカキが全国に届けられるその日まで、今後も継続的に支援していかなければいけないと、強く心に刻んだのでした。



カキの養殖棚があった海



がレキが片付けられた道路



たくさんの模擬店を用意

番外編




想いを届ける、メッセージ付きのうちわ

そらべあ基金の学生団体「そらべあ学生事務局」は、ソニー損害保険株式会社の協力のもと、8月13日、14日の2日間、アクアシティお台場の「そらべあモニュメント」前で、宮城県産のスキ材を使った「うちわ」の配布を行いました。「うちわ」は2枚1組となっていて、1枚は来場者にプレゼントされ、もう1枚は被災地に向けた応援メッセージを書いていただき、被災地に届けます。当日は暑いなか、たくさんの方が参加してくださり、多くの応援メッセージ入りうちわが集まりました。

そして9月11日に宮城県大崎市で開催された「政宗公まつり」で、メッセージ入りうちわの配布が行われました。お祭りの来場者には、お台場でのイベントの様子や、宮城県の木で作られていることなど、うちわに込められた学生たちの想いを、被災地の方々一人ひとりに伝えることのできたイベントとなりました。

ソーラーパワートラックとは？

4tトラックの荷台やウイング部に20wの太陽光発電パネルを250枚搭載し、5kwの発電が可能な電源車システム。一般家庭2軒分の蓄電池を搭載しており、夜間や雨天、災害時にも電気を供給することができる。



番外編




ソーラーパワートラックには、たくさんの方が見学に

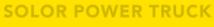


みんなでダンス教室



ヨーヨーパフォーマンスにビックリ

第5弾 日程：2011年7月2日（土）～4日（月）
支援エリア：石巻市立北上中学校「七夕子ども広場」




3月以来、2度目となった石巻市での支援活動。前回の陸前高田市のイベントで一緒だった、ボランティアチーム「INFINITY」、「石ノ森萬画館」のみなさんと、炊き出し会場となる「七夕子ども広場」の会場となる石巻市立北上中学校に向かいます。

朝から雨が心配されましたが、七夕の願いが届いたのか、徐々に晴れ間がのぞいてきました。この日は約600名分の食材を用意していましたが、予想をはるかに超える人々の来場に、スタッフは大わらわ。うれしい悲鳴です。そしてここでも仮面ライダーショーは大人気です！

石巻市内の様子からは、徐々に回復の兆しが見えつつありましたが、現地の方々のお話によると、まだまだ避難している人も多く、学校では給食の配給が間に合っていないとのことでした。復興の難しさを改めて感じました。

七夕子ども広場では、子どもたちの願いが書かれた短冊が飾られました。復興への願いを託した短冊も目立ちます。願いの言葉は被災地の夜空へのぼり、必ずやかなうことでしょう。



ソーラーパワートラック準備完了

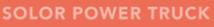


仮面ライダーショーに大興奮



短冊に願いを込めて

第6弾 日程：2011年10月2日（日）
支援エリア：福島県いわき市「がんばっぺ！いわき復興祭」




「ソーラーパワートラックを被災地に！」プロジェクトが、福島の地を訪れるのは初めて。この夏、TBSが開催した「夏サカス2011」にソーラーパワートラックが電源協力した際、震災復興応援ブースに参加していた出店者さんとの出会いがきっかけとなり、「がんばっぺ！いわき復興祭」に参加させていただくことになりました。

「がんばっぺ！いわき復興祭」は、例年開催してきた「いわき大物産展」「いわき産業祭」「いわきおどり」などの祭りが統合した一大イベント。「地域への誇り」と「きずな」の再生を目的としています。そらべあ基金はここで、被災地に笑顔を届ける活動を行っている「リスマイルプロジェクト」さんとの合同によるパフォーマンスショーを行います。

会場となったのは、21世紀の森公園内のいわきグリーンスタジアム前。横付けされたトラックの荷台部分がステージとなります。そしてこの日の主役は、ものまね芸人のタツツイーさん、パントマイマーのエディーさん、ヨーヨーパフォーマーのNiAさん、そしてダンスエンターテインメントグループ・銀座本店さんの4組。それぞれのパフォーマーさんが繰り広げる楽しいステージに、トラックの周りには常に人が集まり、にぎやかな笑い声が絶えません。なかでも、いわき市出身のNiAさんにはひととき大きな声援が集まり、ヨーヨー教室には、たくさんの親子が参加してくれました。

いわき市は3月11日の地震と津波で、小名浜港などの海岸部が被災。さらには4月11日に発生した同市を震源とする地震では、内陸部のスバリゾートハワイアンズなどが大きな被害を受けました。復興祭のメインイベントには、いわき市復興のシンボルであるフラガールたちが登場！華やかな踊りに、踊り子、観客は一体となって復興への願いを込めたのでした。

今回の復興支援活動で感じたのは、被災地の方々の強さ。支え合いながら復興を目指している姿を、応援せずにはいられません。そらべあ基金では今後もさまざまな形で、復興支援のお手伝いを行います。我々の活動にご賛同いただける方は、ぜひとも寄付のご協力をお願いいたします。
がんばっぺ 被災地！ がんばっぺ 東北！